

■ 前回WG提案:モデル案(1)

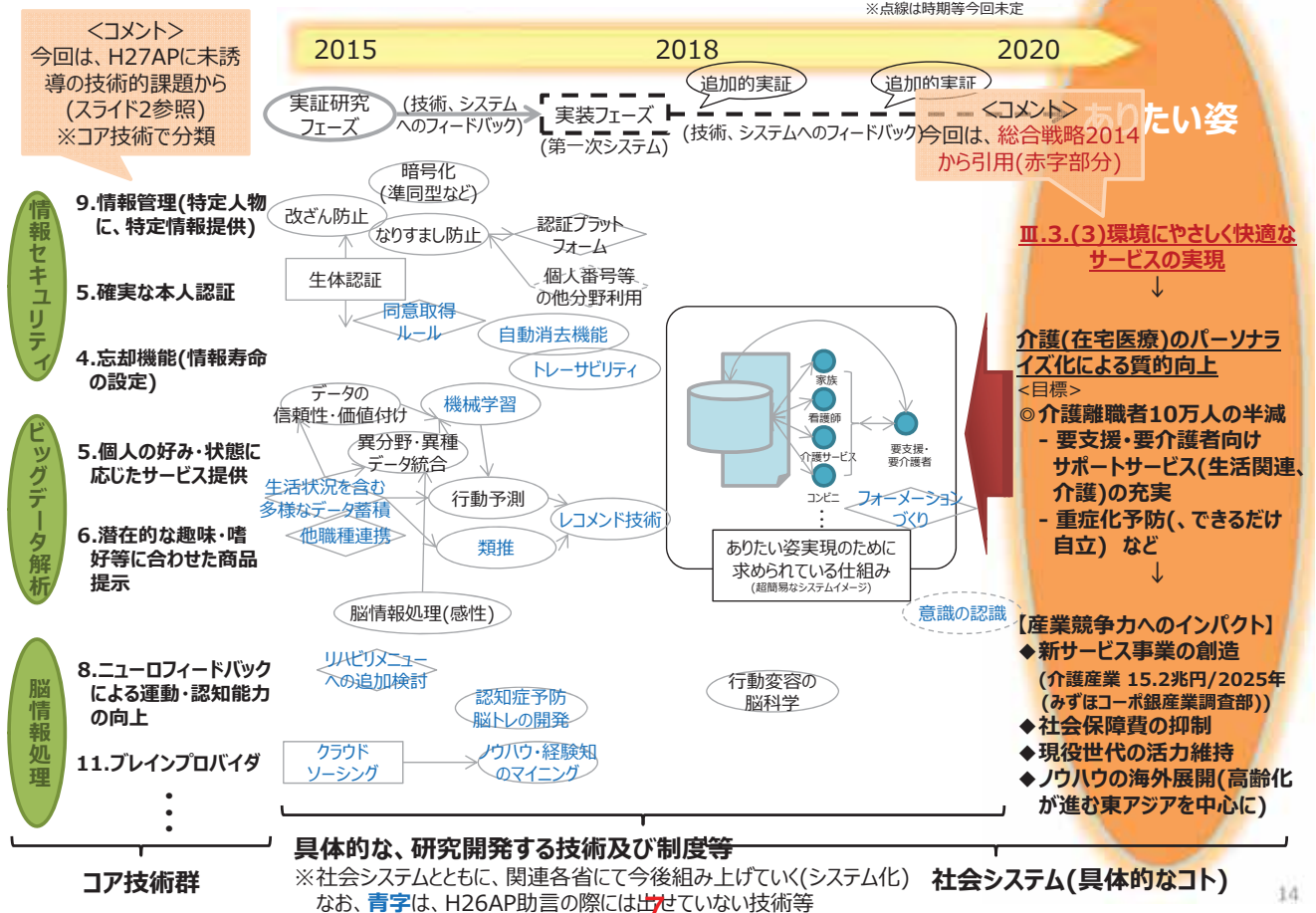
※次頁のモデル案も合せご参照下さい。

1.シナリオ案

提案システム	戦協・WGご提案	シナリオ案
介護(在宅医療)のパーソナライズ化	-	<ul style="list-style-type: none"> • ありたい姿として、超高齢社会を迎えても、できるだけ自立した生活を送ることができる高齢者の割合を増やすとともに、家族だけでなく、個々人の状況に合わせたさまざまな健康・生活支援サービスの提供が充実することで、現在年間10万人にのぼる介護離職者を半減させる。 • この実現によるインパクトは、健康・生活サポートや介護に関連する新サービス事業の創出や年間1兆円規模で増大する社会保障費の抑制、一体的なサービスインフラとしての輸出の増加などが挙げられる。 • 実現のためには、自ら自分の身体の状態・状況を把握することで、日頃からの個々人の健康・自立のための意識醸成を促すとともに、もし、介護・在宅医療の必要が発生した場合、多職種連携でその人に合った支援を行えるフォーメーションづくりが重要となる。 ◆ 想定されるステークホルダー：厚生労働省、自治体、医師、看護師、介護士、サービス事業者、本人と家族 等

■ 前回WG提案:モデル案(1)

下図内凡例： 既存技術 (四角) 新たな研開 (丸) 制度等 (三角)
※点線は時期等今回未定



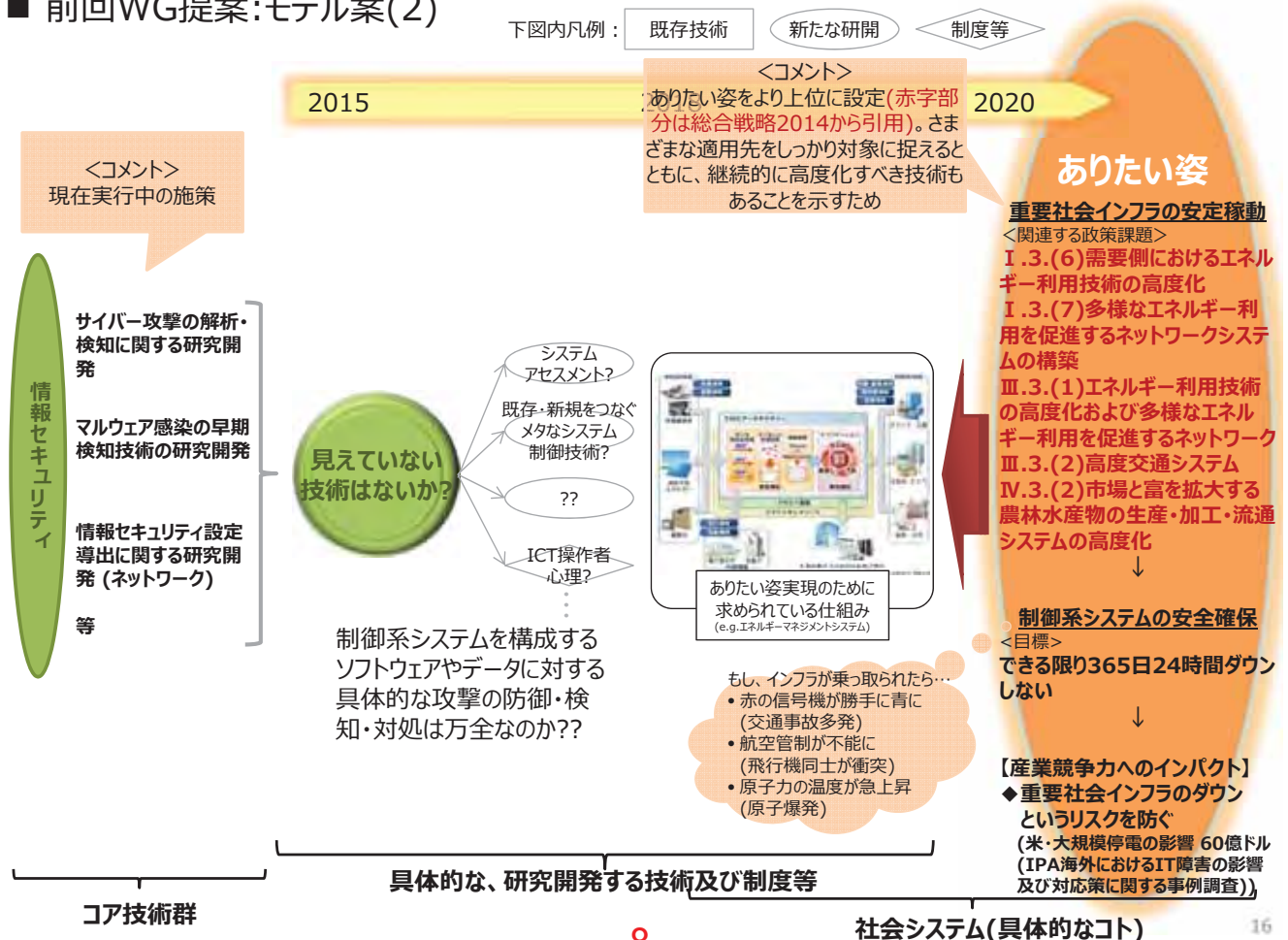
■ 前回WG提案:モデル案(2)

※次頁のモデル案も合せご参照下さい。

1.シナリオ案

提案システム	戦協・WGご提案	シナリオ案
重要社会インフラ(制御系インフラ)の安定稼働	-	<ul style="list-style-type: none"> • ありたい姿として、エネルギーや水道、交通などICTにより制御されている重要社会インフラが、365日24時間できる限り安定的に稼働することを実現する。(外的アタックによるダウンや制御不能状態に陥らせない(復帰目標時間を別途定める必要がある)) • この実現によるインパクトは、人命を守ることや経済的損失の回避など。 • 実現のためには、まずは既存の制御系システムのアセスメントを行う必要がある。これを踏まえ、システムを構成するソフトウェアやデータに対する攻撃の防御、検知、対処を不断に見直していく。 <p>さらに、先進国は既に多くの制御システムが存在しており、その上に、新たに構築されてくるシステムをシームレスに接続するためのメタなシステム制御も重要となる。</p> <p>◆想定されるステークホルダー： 経済産業省、総務省、内閣サイバーセキュリティセンター、(対象により、国土交通省、農林水産省など)、各インフラ事業者等</p>

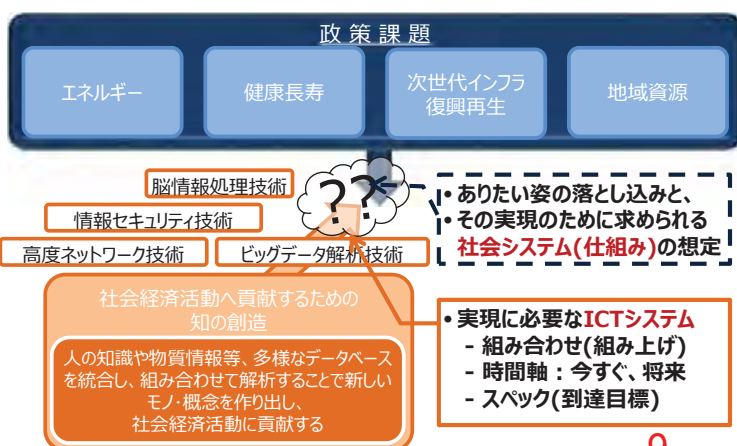
■ 前回WG提案:モデル案(2)



以下、ご参考 (前回WG資料)

■ 検討依頼に対する認識

政策課題解決への視点	総合戦略記載	H27APとして誘導できた 政策課題解決における産業競争力強化策 (今後取り組むべき課題)	H27APとして誘導できなかった 政策課題解決における産業競争力強化策 (今後取り組むべき課題)
(1) 社会経済活動へ貢献するための知の創造	有	<ol style="list-style-type: none"> 2020年までに、変化の激しい情勢に適切に対応できる、創意と工夫に満ちた情報セキュリティ技術の確立【健康長寿、次世代インフラへの貢献】 リアルタイムでの情報伝送処理による災害現場の迅速な把握の実現【次世代インフラへの貢献】 	<ol style="list-style-type: none"> 情報の寿命の設定を可能とし、個人の望まない情報が消失するような忘却機能を備えたネットワークの実現【次世代インフラへの貢献】 確実な本人認証システムを用いた個人の好み・要望に応じたあらゆるサービスの実現【次世代インフラへの貢献】 潜在的な人の趣味・嗜好等に合わせた商品提示を行うニューロマーケティングの確立【健康長寿への貢献】 ヒトの理解の一部を脳情報から評価することで、精神疾患を含めた予防医療の確立【健康長寿への貢献】 ニューロフィードバックによる運動能力や思考能力の向上【健康長寿への貢献】
	無	<ol style="list-style-type: none"> 膨大な情報コンテンツ（4 K、8 K）の世界的発信に向けた情報通信ネットワークの構築 	<ol style="list-style-type: none"> この人にだけ、この情報を、安全・確実に共有する高齢者福祉、地域コミュニティ、個人事業者間での個人情報管理 企業のBYODを実現するセキュリティ技術により多様性のある労働環境の実現 蓄積された知能情報から、複雑な課題への的確な助言や境界領域分野での新発見を実現するブレインプロバイダ マテリアルズ・インフォマティクスを駆使した新世紀物質・材料の創造

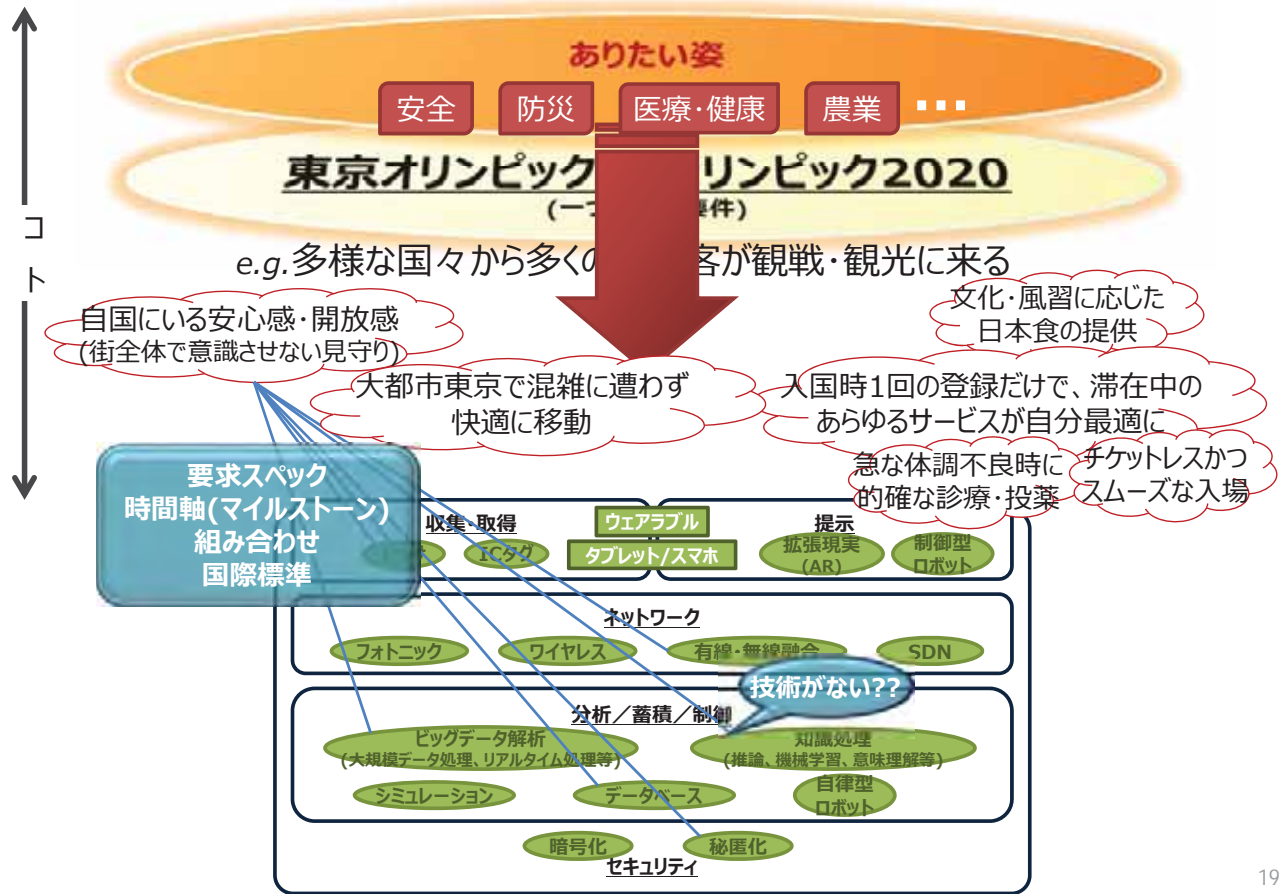


これら「今後取り組むべき課題」がH27APに反映されなかったのは、「何のために」、「どういう価値創出のために」が不明瞭だったことが理由として考えられる。

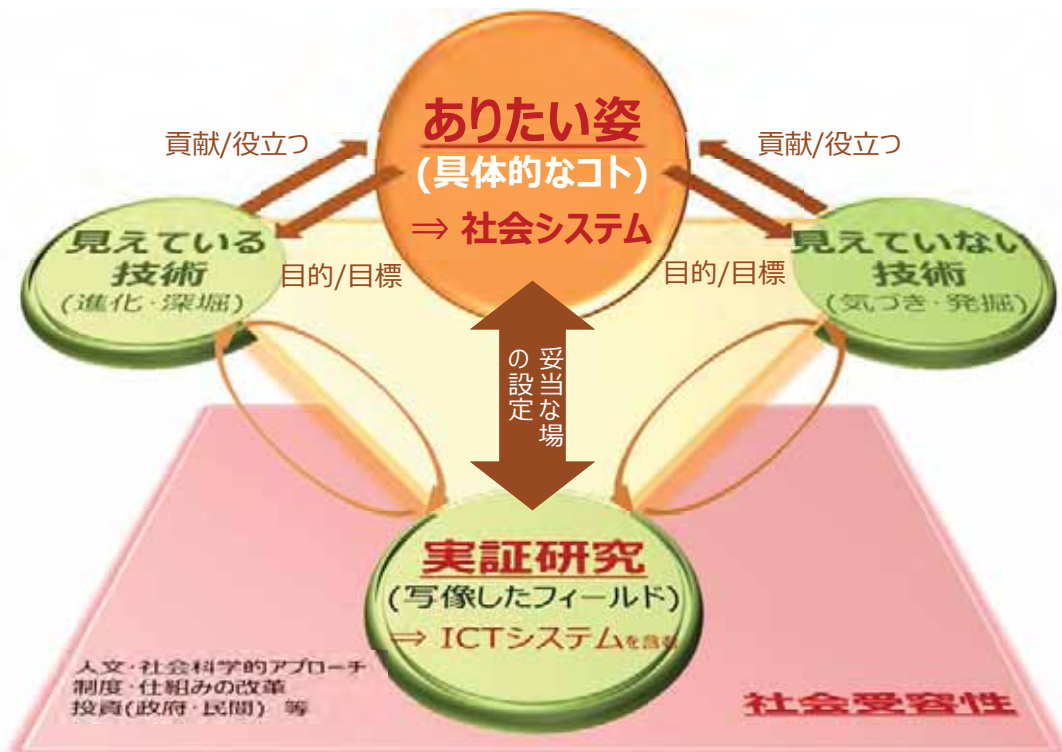
背景として、左図の通り、政策課題(→ありたい姿)からの落とし込み及び政策課題の解決を一義的に担うICT利活用省庁との具体的な合意形成を進める時間が足りなかったからではないか、と考える。

なお、ありたい姿を描くことそのものが研究の自由度を下げる訳ではないことに言及しておく。

■ 検討依頼に対する基本的な考え方 (2014年3月のワークショップで提示(一部修正))



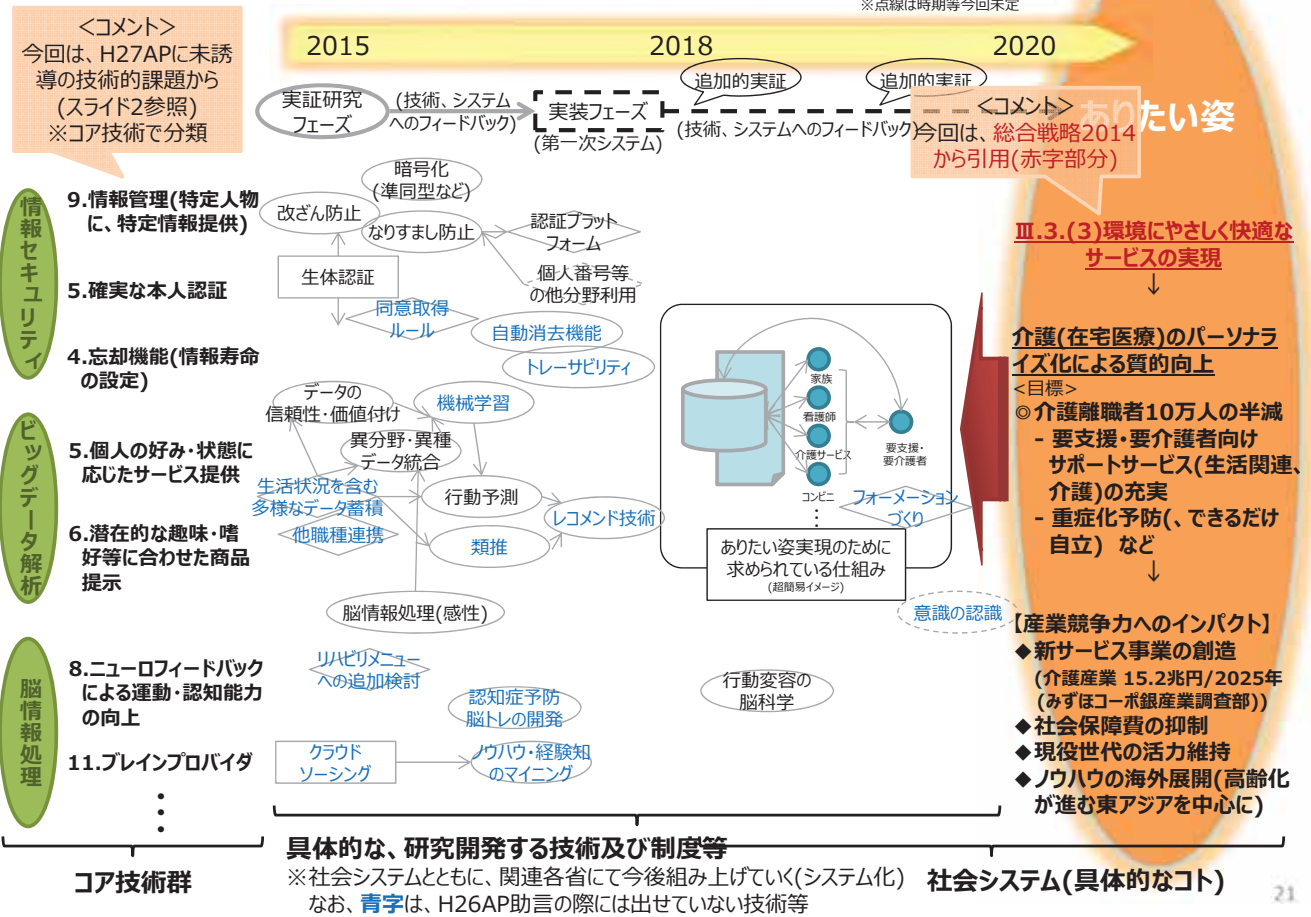
■ 【ご参考】社会実装に向けて必要なこと (2014年3月のワークショップで提示(一部修正))



連携施策検討のモデル案(1)

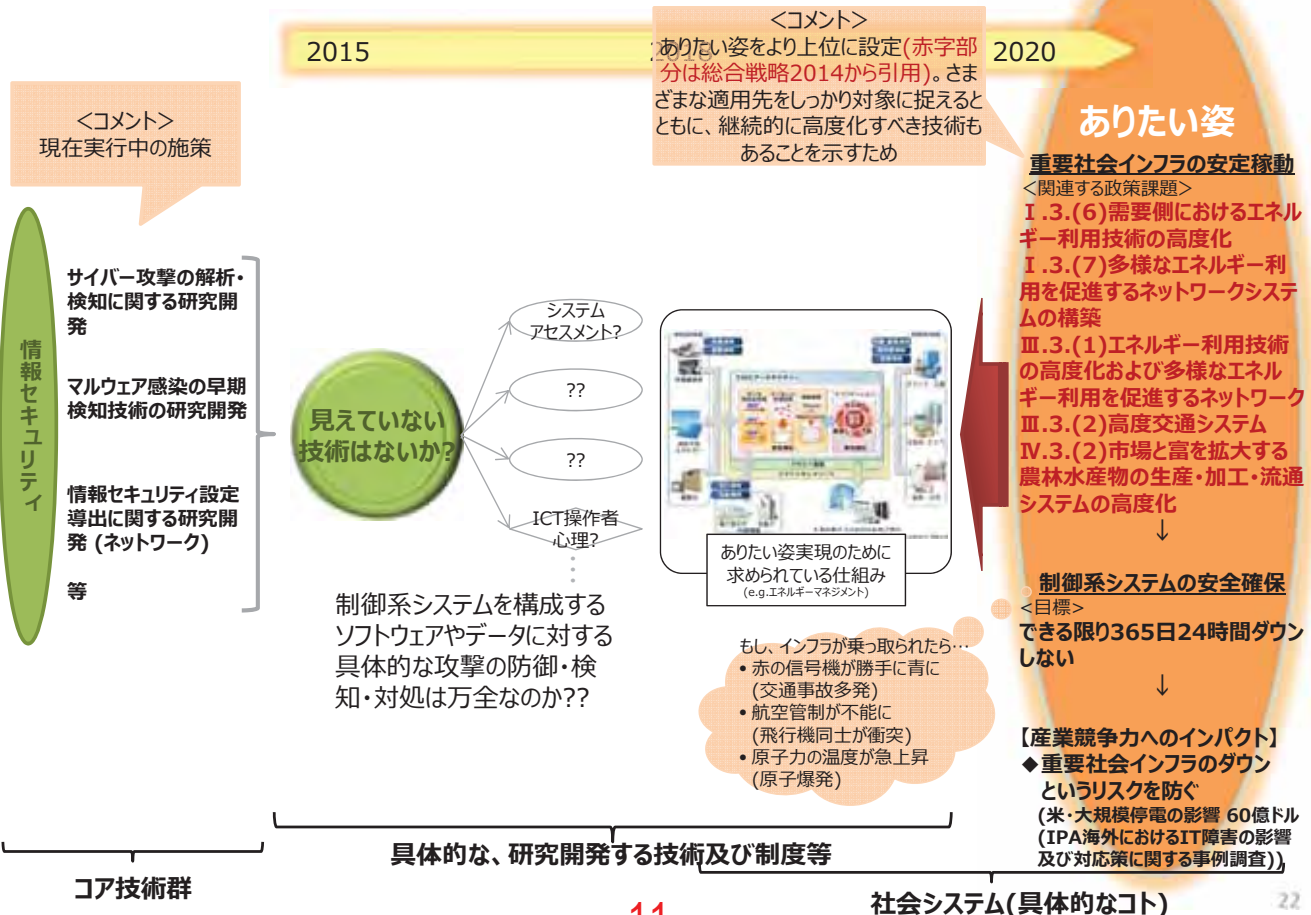
下図内凡例： 既存技術 (既存技術) 新たな研開 (新たな研開) 制度等 (制度等)

※点線は時期等今回未定



連携施策検討のモデル案(2)

下図内凡例： 既存技術 (既存技術) 新たな研開 (新たな研開) 制度等 (制度等)

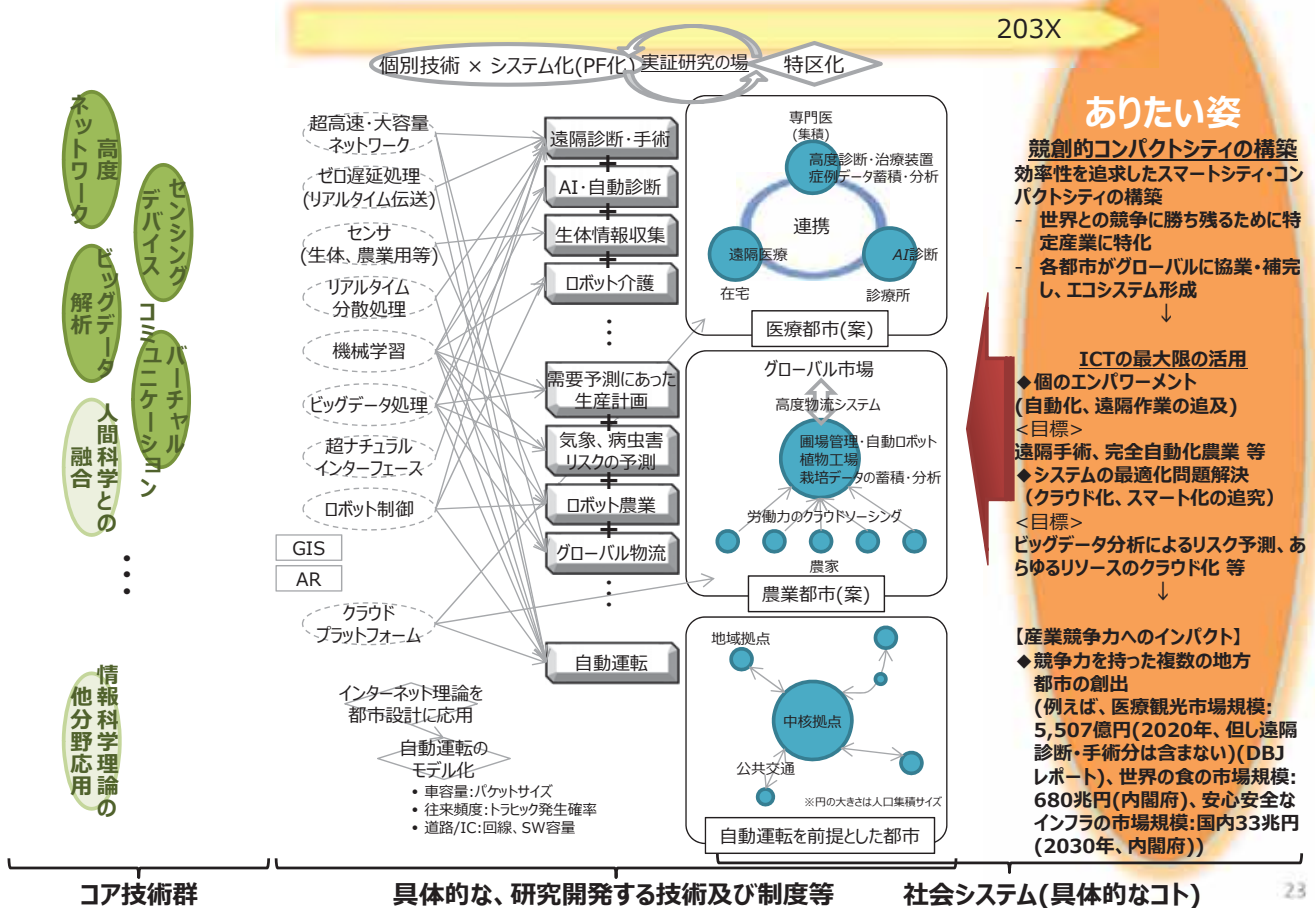


連携施策検討のモデル案(3)

下図内凡例： 既存技術 新たな研開 制度等

※点線は時期等今回未定

203X



検討依頼に対する本モデル案ご提案の背景と趣旨

- H27AP審議に参加し、関連施策をまとめて同じ時間帯で評価する方法は良いと感じた。
- 一方で、関連各省庁間のありたい社会の姿の共有や、その実現に向けたベクトル合せが不十分であると感じた。
- そのため、APを特定して個票を作成する前(4~5月頃/総合戦略の策定に並行)に、CSTI、利活用省庁、技術開発省庁とが顔をつき合わせ、ありたい社会の姿や現状の要素技術群・レベル(何が、どう不足しているか等)を十分に共有し、時間軸やインパクトスケールを含めベクトルを合せる場が必要ではないか、と考えた。
- ベクトルを合せる際の、一つの考え方/フレームの案として、今回試作してみたのが各モデル案である。総合戦略2015の策定、および、SIPを含めたH28AP施策特定のプロセス改善につながれば、幸いである。

<モデル案の考え方>

- ✓ **スライド5:モデル案(1)**は、現在ある情報(政策課題及び今後取り組むべき課題)を主に用いて、AP立案・特定にあたって、どういう組み合わせ(組み上げ)が考えられ得たかを一案として示したものです。つまり、ありたい姿から社会システムの仮説を設定し、それを実現するためにはどんな技術群・個別技術(時期を含む)等があるかを導出しました。
 ありもののマッチングの作業ではありますが、今後、各戦略協議会・WGから示された期待に基づき、関係省庁が議論・検討していく上で参考となれば、との思いから作成しています。
- ✓ **スライド6:モデル案(2)**は、複数のありたい姿に横串で存在する課題を上位に設定することの必要性と、それにより見えていない技術や制度の導出を検討しました。また、技術サイドから常に高度な研究開発に継続的に取り組むべきテーマもある案を示したものです。
- ✓ **スライド7:モデル案(3)**は、203X年(将来課題)を展望するとともに、3グループに分かれたコア技術区分にとらわれずに検討したものです。ありたい姿として競創的コンパクトシティの構築(都市/エリア単位でのグローバル競争力創成)という目標を設定することで、必要な制度/システム/技術を明確にする案を例示したものです。